

## 令和5年度第1回霞ヶ浦自然観察会実施結果

**日 時**：令和5年5月6日（土） 9時30分～12時30分

**テーマ**：自然再生区のヨシ原で植物を観察しよう

**場 所**：霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎自然再生事業区H区周辺、霞ヶ浦環境科学センター生きものの庭及びその途中のハス田の畔

**案 内**：小幡和男（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

**内 容**：

自然再生事業区H区で、再生したヨシ原に生育する種々の植物を観察する。特に県内では霞ヶ浦湖岸でしか見られない絶滅危惧種ヤナギトラノオ、ヨシ原に多いウキヤガラやフトイなど、マルバヤナギやタチヤナギなどのヤナギ類、オニナルコスゲ、ジョウロウスゲ、アゼナルコなどスゲ類にスポットを当てる。

**参加者**：23名

**担当職員**：4名

**パートナー**：5名

**結 果**：

天気予報では直前まで雨マークがついていましたが、当日は晴れとなりました。しかし、南寄りの風が大変強く、植物の観察はかなり難儀する天気でした。

春の湿地の植物は見どころが豊富です。霞ヶ浦環境科学センターの「生きものの庭」（ビオトープ）には、霞ヶ浦に生育するいろいろな湿地の植物が見られるようになっています。観察会では、風が強いことを考慮し、予定を変更して、安全に観察できるセンター内での観察を行うこととしました。

また、今年は暖かい日が多いためか、季節の進みが早く、観察のターゲットとしていた植物が見ごろを過ぎてしまっていないかと心配しましたが、一番の目的であったヤナギトラノオもちょうど満開で、素晴らしい観察会となりました。

以下、観察した主な植物を掲載します。

### ○アサザ 絶滅危惧種

センターで、コンテナで栽培しているアサザが、早くも花を咲かせました。自然再生区の個体は保護のため観察は遠慮しました。アサザは雌しべの花柱の長いタイプ（長花柱花）と短いタイプ（短花柱花）があり、異なるタイプでないと交配しないことが知られています。観察した個体は短花柱花でした。

### ○ショウブ、キショウブ、カキツバタ

しょうぶ湯に使うショウブは目立たない花をつけるショウブ科の植物です。センターの上池で花をつけていました。すぐ近くに、アヤメ科のキショウブとカキツバタが花を咲かせていました。葉は似ているが、全く違う花を咲かせるこれらの植物を比較しながら観察しました。

### ○タコノアシ 絶滅危惧種

センターの上池で、タコノアシが50cm程度に成長していました。夏に花を咲かせ秋に紅葉する様子を想像しました。

### ○スゲの仲間 ジョウロウスゲ、ミコシガヤは絶滅危惧種

霞ヶ浦の湿地には多くの種類のスゲが生育します。センターで、オニナルコスゲ、アゼナルコ、ジョウロウスゲ、自然再生区で、その3種に加えて、カサスゲ、ミコシガヤの5種類を観察することができました。

### ○ヨシとセイタカヨシ セイタカヨシは絶滅危惧種

湖岸の堤防にセイタカヨシが見られますが、センターで両種を観察しました。セイタカヨシは去年の稈（茎）の節から芽が出ます。また、葉が垂れないことでヨシと区別することができます。

### ○名前にイのつく植物

イグサ科のイグサ、コゴメイ、クサイ、カヤツリグサ科のフトイ、スジヌマハリイを観察しました。カヤツリグサ科にも葉が退化して茎の先の花を咲かせるものにイの名前がつくも

のが多くあります。よく見ると花のつくりが違うので見分けることができます。センターと自然再生区でこの5種類を観察することができました。コゴメイは最近増えている外来種ですが、茎の断面を見ると空洞で竹の節のようになっているのでイグサと区別することができます。

### ○ウキクサとコウキクサ

葉がやや大きくて1枚の葉から複数の根が出ているウキクサと、葉が小さく1枚の葉から1本の根が出ているコウキクサをハス田で観察することができました。

### ○タガラシとケキツネノボタン

キンポウゲ科の植物で、湿地や田んぼの雑草として生えるよく似た植物に、タガラシとケキツネノボタンがあります。果実の形、葉の形、全身の毛の生え方などで見分けることができます。ハス田の畔で観察しました。

### ○ガマとヒメガマ

葉の幅が広いガマと狭いヒメガマをハス田で観察しました。霞ヶ浦の湖岸に広く群落を作るのはヒメガマの方です。

### ○ヤハズエンドウ（カラスノエンドウ）、スズメノエンドウ、カスマグサ

マメ科のよく似た草3種を、湖岸の堤防の上で比べながら観察しました。カスマグサの名前は、カラスとスズメの間の草（両種の間のかたち）という意味と説明すると皆さん納得していました。

### ○チガヤとケナシチガヤ

湿地に生えるチガヤは、茎の節に毛がない（ケナシチガヤ）。道端などやや乾いたところに生えるチガヤは、節に毛がある（チガヤ）。自然再生区の湿地と堤防で両種を比較しました。

### ○マンネングサの名前のつく植物

ベンケイソウ科の多肉植物にマンネングサの名がつく植物があります。自然再生区のコンクリートの平場で、コモチマンネングサ（在来種）、ツルマンネングサ、ヨコハママンネングサ（外来種）を比べて観察しました。

## ○特定外来生物指定種

自然再生区のヨシ原で繁殖し、駆除の対象として問題になっている特定外来生物に指定されている植物3種を観察しました。オオバナミズキンバイ、オオフサモ、ミズヒマワリの3種です。

## ○ヤナギトラノオ 絶滅危惧種

自然再生区の湿地でヤナギトラノオの群落を観察しました。ヤナギトラノオはサクラソウ科オカトラノオ属の植物で、葉のつけ根から穂状の黄色い花を咲かせていました。この植物は尾瀬の湿原にも見られる北方系の植物で、霞ヶ浦に分布する不思議をみんなで考えました。

## ○セリとドクゼリ

食用にするセリと日本3大有毒植物に数えられるドクゼリを自然再生区の湿地で比べながら観察しました。比べると葉の形はずいぶん違いますが、間違えて中毒事故を起こすことがあります。

## ○ヤナギの仲間

自然再生区の湿地で、マルバヤナギ、オノエヤナギ、カワヤナギ、タチヤナギ、ジャヤナギ、イヌコリヤナギの6種類のヤナギの仲間を比べながら観察しました。よく似ているので、区別することは大変難しいです。

# 第1回霞ヶ浦自然観察会



開会とオリエンテーション



センターの生きものの庭でヨシとセイタカヨシを観察



自然再生区に行く途中のハス田で植物を観察する



ハス田の畔でケキツネノボタンとタガラシを観察



自然再生区の堤防に生育するノイバラを観察



自然再生区のカサスゲを観察



自然再生区のヤナギトラノオ群落



黄色い花を咲かせたヤナギトラノオ